

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	北海道	市町村名		大学名	
派遣日時	令和7年8月27日(水曜日) 13:00~16:00				
実施方法	派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	オンライン講義				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会 指導主事 横溝 亮 様				
相談者(受講者)	北海道教育庁学校教育局義務教育課 (受講者) (1) 日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する又は本連絡協議会に参加を希望する市町村教育委員会職員及び全ての校種(幼・小・中・高)の教職員等 80名 (2) 各教育局指導主事及び北海道立教育研究所研究研修主事等 23名 (3) 日本語指導ボランティア等 26名				
相談内容等	日本語指導が必要な児童生徒数が増加している一方、受入実績がない市町村が多く、受け入れ・指導・関係機関連携体制のノウハウがない。また、授業参加までの日本語能力獲得ができる指導方法を確立している事例がない。 これらの状況に対応していくため、特に初期の対応について理解を深めることを目的として、次の事項について講義をいただいた。 ・授業参加までの日本語能力獲得のための日本語指導方法に関する講義 ・DLAの実施とその活用方法に関する講義				
派遣者からの指導助言内容	講義・演習・協議 [160分] 「外国につながる子どもたちを支える、高める指導・支援」 13:10~13:40 「ことばの力のものさし」、強み・長所を生かす指導について講義 (内容) ・「日本語ができない子ども」ではなく「日本語も母語もできる可能性のある子ども」として当該の子ども、文化的・言語的背景や思考過程に目を向けることで、子どもの可能性を最大限に引き出すことができる。 ・外国につながる子どもたちは、日本を受け入れる気持ちが整っておらず、いつも意欲的に学べるわけではないので、組織の中で自ら力を発揮できるよう意欲を向上させていくことが必要である。 ・子どもがもつ資質・能力や知識などの強みを引き出し、伸ばすことで、強みが発揮され、自己肯定感が高まる。「つまずき」を見る以上に、「強み・長所」を見ることを大切にする。 ・児童生徒のすべてのことば、「長所・強み」に目を向け、「長所・強み」を生かして児童生徒のことばの力を高めること。(十分発話できるが自信が無く、発言しやすい環境が必要な子、積極的に日本語を使おうとする子、思考力は高いが表現に課題がある子、他の子と一緒に参加しやすい子等、特徴に応じて「長所・強み」を生かせるよう支援を行うことが重要)				

13:40~14:00 DLA動画視聴

14:00~14:15 グループワーク①

○ 視聴した動画の児童Aについて、「ものさし」を使いながら、現在の「強み、長所」は何かについて話し合う。

(各グループからの主な意見)

- ・短い滞日期間であるが、日本語の習得率が高く、日本語で話す意欲が高い。
- ・中国語での意思表示がしっかりできていたことから、中国語で考えたことを深めるようにするとよいのではないか。
- ・ステージCかBであり、日本語の習得ステップについても、5から6であるのではないかと。母語での学習内容がよく身に付いていることが分かった。
- ・「聞く・話す」についてはステージB、読むについてはステップ4ではないかと考える。中国語での「聞く・話す」は、ステージDではないかと考え、中国語では学年相当以上の認知能力が備わっていると考えた。
- ・母国語と併用しながら指導することが大切であるということが分かった。

14:15~14:20

○ 児童生徒のことばの力を高める活動の紹介

14:30~15:55 グループワーク②

○ グループごとに児童のことばの力を高める活動案を考え交流、発表
(各グループの活動案)

案①

Aさんの高めたい力：自分の思いや考えを、複文で伝える力

目標：複文を使った表現で自分の思いや考えを伝えることができる。

絵や資料を用いて、説明することができる。

友だちと協働して取り組むことができる。

活動内容：「地球温暖化について、自分たちのできることを発表しよう」

案②

Aさんの高めたい力：自分自身や日常的な話題について、対話による支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って主に単語でなんとか意味の通じる話ができる。

日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる。

目標：教師や友だちとやりとりをしながら、理想の給食メニューを考え、クラスの友だちに伝えることができる。

活動内容：「みんなの理想の給食メニューを考えよう」

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>【参加者の事後アンケートより抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none">・説明・演習等を通して、日本語能力の把握があつての支援策だと感じた。「ことばの力のものさし」を積極的に活用していきたい。・外国人児童生徒に対して、日本語の習得のみを目標にする感があつたが、母国語を併用しながら考え方を深めさせ、日本語の表現方法を学ばせることのよさを学ぶことができた。・一方的に話を聞くだけではなくて交流の時間が多く設定されており、考えを深めることのできたのがよかった。横浜という先進地域の事例であつたが、北海道においても例外なく国際化の波が押し寄せている現状において、このような研修は重要であり、大変参考になった。・演習を通して、包括的なことばの力や日本語習得のステップを把握（評価）することの難しさと、両方を把握することの必要さを改めて感じた。・授業を構想する際には、児童生徒の長所や強みを生かした活動を設定することを前提にする必要があることや、単元の終末では、児童生徒がどのようなことができるようになったのか、自身が学んだことが学級の友だちにどのような影響を与えたのかを自覚させるようなフィードバックを指導者が意識するなど、児童生徒の自己有用感を高めていくことが重要であると感じた。・動画で実際の児童の姿を根拠にしなが、「ことばのものさし」と照らし合わせて交流や協議を行えたことが大変勉強になった。指導者側の思いが先行した指導になると、児童生徒の実態に合わない指導となり、児童生徒に苦しい思いをさせてしまうことがあることから、包括的にことばの発達を捉え、本当に高める力は何かを見極めることの大切さを理解することができた。 <p>【今後に向けて】</p> <p>北海道においては、いずれの市町村においても、日本語指導が必要な児童生徒の受入れが想定されることから、各学校においては、学校全体で受け入れる体制の整備、日本語能力の客観的把握、及び個々の実態に応じた適切な日本語指導の実施が課題となっている。</p> <p>今回の研修では、実際にDLAを実施している動画を視聴し、「ことばの力のものさし」を活用して当該児童の強みや長所を把握するとともに、今後高めるべき力を明確化した上で目標を設定し、学習活動を検討する取組を行ったことにより、授業づくりや指導力向上に資する多くの示唆を得ることができた。</p> <p>今後は、いただいた指導助言を踏まえ、児童生徒の「ことば」全般や「長所・強み」に着目しながら言語能力の程度を的確に把握し、継続的な指導の充実を図る。また、この度紹介された「パンフレットづくり」の実例や、その他取組等を活用し、支援体制の一層の整備・充実に努めていく。</p>
--------------------	---